

<開催概要>

胆振地方の二級河川長流川の中流域に位置する壮瞥町において、大雨が降った際の住民の安全確保を目的に、流域の防災関係機関による対応や連携事項を時間軸で整理する「長流川(壮瞥町)水害タイムライン検討会」が発足し、参加機関の認識共有とタイムライン防災や長流川流域に関する知識醸成のための勉強会および現地見学会を開催しました。

長流川(壮瞥町)水害タイムライン検討会 発足式・勉強会



- 開催日時** 【発足式・勉強会】 令和7年11月6日(木) 14:30～17:30
【現地見学会】 令和7年11月7日(金) 9:00～11:30
- 開催場所** 壮瞥町役場 2階 大会議室
- 構成員** 【アドバイザー】 松尾一郎 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター、中津川誠 室蘭工業大学大学院工学研究科、日本気象予報士会北海道支部 志田昌之 気象防災アドバイザー
【参加機関】 室蘭地方气象台、北海道胆振総合振興局地域創生部、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部、壮瞥町、西胆振行政事務組合伊達消防本部、伊達警察署
【事務局】 壮瞥町、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部
【オブザーバー】 北海道開発局室蘭開発建設部、北海道総務部危機対策局危機対策課、北海道建設部建設政策局、伊達市、洞爺湖町、豊浦町

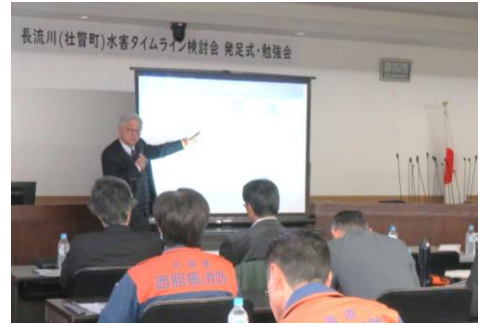
開会挨拶

壮瞥町 田鍋町長

発足式・勉強会の開催にあたり、壮瞥町の田鍋敏也町長から開会挨拶を行いました。1977-78年や2000年の有珠山噴火を振り返り、その教訓を踏まえた地域防災の継続的な取り組みにより災害に備える持続可能な地域づくり、人づくりが推進されていること、そして近年の大雨による災害の激甚化・頻発化に対する一層の対応強化の必要性について強調しました。この分野の第一人者である松尾一郎客員教授にアドバイザーとして参画いただき、関係機関の連携とともに地域・企業・住民が一体となって総合的な防災力向上につながっていくことを期待するとお話ししました。



検討会座長に就任されたアドバイザーの松尾客員教授から、タイムライン防災の意義や効果について事例をもとに講演を頂きました。2013年に米国の調査で発見し日本に導入したタイムライン防災は、現在では国の防災基本計画に明記され、策定が努力義務となっていること、災害を時間軸で整理して「いつ・誰が・何をするか」を明確化することで臨機応変な修正が可能になること、災害から命を守る主体は住民であることなどに触れ、噴火・洪水などの複合災害リスクを抱える壮瞥町で、行政・住民・専門家が一体となり地域に根差した実践を積み重ねてほしいとまとめられました。



対象地域の概要と9月豪雨対応の振り返り

【説明】壮瞥町・室蘭建設管理部

勉強会では、壮瞥町の植田主幹から「壮瞥町の概要」、室蘭建設管理部治水課の池田主査から「長流川の概要」について説明を行いました。また、令和7年9月13日から14日にかけての大雨に対する各機関の対応をクロノロジーでまとめた資料をもとに、参加機関からそれぞれ説明を行いました。

その後の意見交換では、検討会アドバイザーに就任して頂いた中津川教授から、明確な時間軸にて各機関が自律的に動く体制をしっかりと作っていく必要があるとのご意見をいただき、参画機関にて認識の共有を深めました。

長流川流域の降雨の特徴と予想について

【説明】志田気象防災アドバイザー



検討会アドバイザーに就任して頂いた志田気象防災アドバイザーから、「長流川流域の降雨の特徴と予想について」として、9月13日に発生した壮瞥町・長流川流域の大雨事例をもとに、気象情報の特性とタイムライン防災への活用の考え方について解説して頂きました。質疑応答では、令和7年9月13日の線状降水帯発生予想の例をもとに線状降水帯発生までのリードタイムをどう活かすことができるかについて、アドバイザー・参加機関による議論が交わされました。

閉会挨拶

胆振総合振興局室蘭建設管理部 青柳副局長



発足式・勉強会の閉会にあたり、室蘭建設管理部の青柳副局長より、近年の豪雨被害の多発を踏まえ、水防体制強化の必要性を強調するとともに、タイムラインは「誰が・いつ・何をするか」を時間軸で整理し関係機関が連携して災害対応を行うための計画であり、本日の勉強会と発足式を通じて長流川の課題共有が進んだと評価しました。関係者協力のもと長流川(壮瞥町)水害タイムラインの早期策定と運用を目指したいと締めました。

現地見学会（11月7日9:00～11:30；長流川中流域）

勉強会の翌日は、タイムラインを検討していく際に特に注意すべき浸水想定区域（上立香橋周辺・久保内地区・蟠溪地区）を見学し、壮瞥町や室蘭建設管理部等からの説明を聞いて活発な意見交換が行われました。

アドバイザーの中津川教授からは、浸水だけではなく侵食による家屋倒壊リスクも重要で、地域住民が危険を実感して避難行動につなげられるような情報伝達と意識づくりが必要であるとの総括をいただきました。

